

会報

明石のぼうさい

編集発行/明石防火協会(明石市消防本部予防課内)
〒673-0044 明石市藤江924番地の8
TEL(078)918-5272 FAX(078)918-5983
ホームページアドレス: <http://www.akashi-bouka.jp/>



防火協会の定例行事である視察研修が七月十一日の両日にわたり、先進都市事業所の防火管理体制や先人の防災精神を学ぶべく、和歌山方面への視察研修を実施しました。

一日目は、有田郡有田町の和歌山アイコム(株)を視察しました。同社は無線機器の製造工場で、基盤の作成、検査・点検、組立てまでを行います。全社員の改善案を積極的に取り入れることにより、品質管理、生産効率が向上されています。国内生産で高品質・低価格を実現させています。職場環境面では、整理整頓やしつかりとした消防用設備の維持管理が図られています。

二日目は、有田郡広川町の稲村の火の館を見学しました。濱口梧陵の偉大な功績や教訓を学ぶことができました。濱口梧陵が村民と築き上げた広村堤防は約九十年後の昭和南海地震津波で村を守り、その構造は今もなお津波に強い構造とされています。

いつの世も津波などの災害後の迅速な復興と防災力の強化が重要であることを改めて考えさせられました。



防火協会視察研修



平成二十七年 兵庫県危険物安全・安心大会

危険物安全全週間の平成二十七年六月十一日(木)「兵庫県公館」において、県下防火協会、保安協会関係者約3百名が参加し、盛大に行われました。第一部の表彰式では、

- 兵庫県危険物安全協会理事長表彰(優良事業所) 株式会社藤田産業セルフステージ魚住給油所
- 兵庫県危険物安全協会理事表彰(優良取扱者) 川崎重工株式会社明石工場
- 川重サービズ株式会社保安部 担当課長 村本 和哉氏
- 三宮オイル株式会社明石大久保給油所 給油所長 石橋 義彦氏



平成27年度 兵庫県危険物安全・安心大会表彰者

平成27年 上半期(1~6月)火災・救急の統計

火災の概要

平成27年上半期の明石市における火災件数は、25件・焼損床面積は293㎡・火災損害額2,749.4万円・死者2名・負傷者6名です。

●前年度の比較(上半期・件数)

区分	平成27年	平成26年
建物	20	29
林野	0	0
車両	0	4
船舶	0	0
その他	5	11
合計	25	44

●出火原因(件数)

放火(含疑)	3
こんろ	3
ストーブ	2
たばこ	1
排気管	1
電気機器	1
切・溶断機	1
火遊び	2
マッチライター	1
灯火	1
火入れ	2
その他	4
不明・調査中	3
合計	25

●火災損害

焼損棟数	全焼	2棟
	半焼	2棟
	部分焼	3棟
焼損面積		293㎡
り災世帯	全損	2世帯
	半損	1世帯
	小損	13世帯
り災人員		16人
損害額		27494千円
建物		27003千円
車両		0
船舶		0
その他		491千円

救急の概要

●前年度の比較(件数)

区分	平成27年	平成26年
急病	4,001	4,005
交通事故	518	519
一般負傷	1007	950
加害	45	50
自損行為	66	74
労働災害	32	28
運動競技	39	27
火災	27	26
水難	9	0
自然災害	0	0
転院搬送	558	574
その他	123	140
合計	6,425	6,393



火災件数は25件で前年より19件減少しました。火災による死者は2名で増減なし、負傷者は6名で2名減少しています。主な出火原因を見ると、1位が「その他」4件、2位は「こんろ」「放火」とともに3件となっています。火災件数の中で「建物火災」は20件で前年より9件減少し、「車両火災」は0件で4件減少し、「その他火災」は5件で6件減少しています。火災による死者は2名で増減なし、負傷者は6名で2名減少しています。また建物火災の中で損害額については、前年より19.7%減少しています。救急出動件数は6,425件で前年より32件増加しています。救急事故種別は1位急病4,001件、一般負傷1,007件、3位転院搬送558件となっています。

市民レスキュー講座の開催

- ①講習日時 毎月第1土曜日の午前9時30分から午後0時30分まで
 - ②会場 明石市防災センター2階視聴覚室・消防署救助訓練施設
 - ③講習対象者 地域の防災について関心があり体力に自信のある、明石市在住又は、在勤(校)者の方(中学生以上)20名(先着順受付)
- 申込みの詳細は [明石市民レスキュー講座](#) 検索

編集雑感(後記)

協会員の皆様は住宅用火災警報器の設置はお済みでしょうか? 現在は設置が義務化されておりますが、まだまだ未設置の住宅があります。また、設置後10年近く経つためセンサーなどの劣化や電池切れなどが発生し機器の取替え時期をむかえる住戸もあります。全国的に見ましても建物火災による死者の6割は逃げ遅れであり、死者の発生した住宅で、住宅用火災警報器未設置57%、設置不明が28%であることから、自分や家族を守るため、ローン中の家を守るためには、やはり住宅用火災警報器が効果的を発揮するようにす。消火器と住宅用火災警報器は生きていく上での必要アイテムではないでしょうか。



医療福祉防火管理研究部会

当部会の定例行事である視察研修が九月十日(木)に実施されました。田中部会長以下部会員二十名が参加し、大阪市西区にある「多根総合病院」を見学しました。

今回視察した病院は、1949年(昭和24年)に創立され、現在の建物は免震構造であり、最先端の設備と技術を誇る病院です。民間病院でありながら災害拠点病院に指定されており、大規模災害時の院内活動も確立されていました。また、京セラドームとも繋がり、大阪市消防局や交通

局とも隣接した大阪市の防災拠点に位置する病院でした。

消防用設備等も適正に維持管理され、防火管理体制についてもしっかりと構築された見本となる事業所でした。

昼食後、今年の3月にオープンしたばかりの「さかい利晶の杜」を見学しました。この施設は、千利休と安土桃山時代の堺、与謝野晶子と明治大正時代の堺を知ることができる施設で、防火管理の状況は、基準どおりの消防用設備に加え、円滑な避難誘導につながる見通しの良い造りとなっていました。



平成二十七年 秋季火災予防運動 十一月九日(月)～十五日(日)

「防火標語」

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

「目的」

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的としています。

「防火ポスター表彰式」

十月二十一日(水)

「防火ポスター展」

十月二十日(水)～十月二十八日(水) 市役所二階ロビーで展示

十月九日(月)～十月十六日(月) イオン明石ショッピングセンター 一番街で展示

実施要領

「重点目標」

- 1 住宅防火対策の推進
- 2 放火火災防止対策の推進
- 3 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- 4 製品火災の発生防止に向けた取組の推進
- 5 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

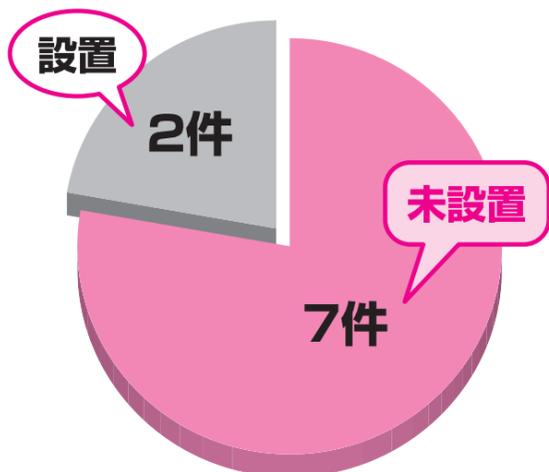
「推進項目」

- (1)住宅防火対策の推進
 - ア 住宅用火災警報器の設置の徹底、適切な維持管理の周知及び経年劣化した住宅用火災警報器の交換の推進
 - イ 住宅用火災警報器の普及促進
 - ウ 住宅用火災警報器の普及促進
 - エ 消防団、女性(婦人)防火クラブ及び自主防災組織等と連携した広報・普及啓発活動の推進
 - オ 地域の実情に即した広報の推進
 - カ 高齢者等の要配慮者の把握や安全対策に重点を置いた死者発生防止対策の推進
 - キ 放火火災防止対策の推進
- (2)放火火災防止対策の推進
 - ア 放火火災に対する地域の対応力の向上
 - イ パチンコ店及び物品販売店舗における放火火災防止対策の徹底
 - ウ 効果的な放火火災被害の軽減対策の実施
 - エ 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
 - ア 防火管理体制の充実
 - イ 避難施設等及び老朽化消火器を始めとする消防設備等の維持管理の徹底
 - ウ 防災物品の使用の徹底及び防災用品の使用の徹底及び防火対象物定期点検報告制度及び防火安全管理点検報告制度の周知徹底
 - エ 違反のある防火対象物に対する是正指導の推進
 - オ ホテル・旅館等における防火安全対策の徹底
 - カ 表示制度及び公表制度の取組の推進
- (3)特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
 - ア 防火管理体制の充実
 - イ 避難施設等及び老朽化消火器を始めとする消防設備等の維持管理の徹底
 - ウ 防災物品の使用の徹底及び防災用品の使用の徹底及び防火対象物定期点検報告制度及び防火安全管理点検報告制度の周知徹底
 - エ 違反のある防火対象物に対する是正指導の推進
 - オ ホテル・旅館等における防火安全対策の徹底
 - カ 表示制度及び公表制度の取組の推進

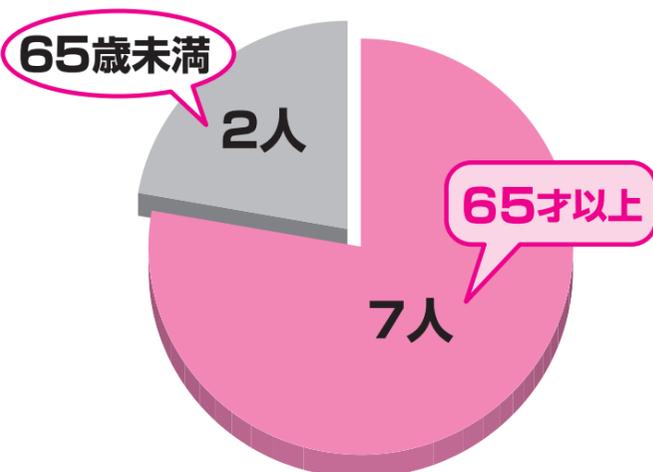
明石市の過去5年間に死者が発生した9件の住宅火災状況

- 死者が発生した住宅火災の78%は住宅用火災警報器未設置!!
- 住宅火災による死者の78%は高齢者!!

住宅用火災警報器の設置状況



住宅火災による死者の内訳



・住宅用火災警報器を設置しましょう!

・10年経過した機器は取替えましょう!

平成二十七年 明石市危険物防災講演会

平成二十七年六月九日(火)明石市産業交流センターにおいて、市内に危険物施設を所有する事業所の保安業務担当者に対して、危険物の保安に対する意識の高揚、啓発を推進することにより自主保安体制の確立及び危険物の起因する事故災害の防止を図ることを目的に、危険物防災講演会を開催しました。

国立大学法人横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 野口和彦氏を講師に迎え、「地域と組織を守るリスクマネジメントの推進」と題し講演会が行われ、市内の三十事業所から多数の方が熱心に受講されました。

